

CA Application Performance Management

リリースノート

リリース 9.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントは、以下の CA Technologies 製品および機能に関するものです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA Application Performance Management ChangeDetector (CA APM ChangeDetector)
- CA Application Performance Management ErrorDetector (CA APM ErrorDetector)
- CA Application Performance Management for CA Database Performance (CA APM for CA Database Performance)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® (CA APM for CA SiteMinder®)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® Application Server Agents (CA APM for CA SiteMinder® ASA)
- CA Application Performance Management for IBM CICS Transaction Gateway (CA APM for IBM CICS Transaction Gateway)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Application Server (CA APM for IBM WebSphere Application Server)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Distributed Environments (CA APM for IBM WebSphere Distributed Environments)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere MQ (CA APM for IBM WebSphere MQ)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Portal (CA APM for IBM WebSphere Portal)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Process Server (CA APM for IBM WebSphere Process Server)
- CA Application Performance Management for IBM z/OS® (CA APM for IBM z/OS®)
- CA Application Performance Management for Microsoft SharePoint (CA APM for Microsoft SharePoint)
- CA Application Performance Management for Oracle Databases (CA APM for Oracle Databases)

- CA Application Performance Management for Oracle Service Bus (CA APM for Oracle Service Bus)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Portal (CA APM for Oracle WebLogic Portal)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Server (CA APM for Oracle WebLogic Server)
- CA Application Performance Management for SOA (CA APM for SOA)
- CA Application Performance Management for TIBCO BusinessWorks (CA APM for TIBCO BusinessWorks)
- CA Application Performance Management for TIBCO Enterprise Message Service (CA APM for TIBCO Enterprise Message Service)
- CA Application Performance Management for Web Servers (CA APM for Web Servers)
- CA Application Performance Management for webMethods Broker (CA APM for webMethods Broker)
- CA Application Performance Management for webMethods Integration Server (CA APM for webMethods Integration Server)
- CA Application Performance Management Integration for CA CMDB (CA APM Integration for CA CMDB)
- CA Application Performance Management Integration for CA NSM (CA APM Integration for CA NSM)
- CA Application Performance Management LeakHunter (CA APM LeakHunter)
- CA Application Performance Management Transaction Generator (CA APM TG)
- CA Cross-Enterprise Application Performance Management
- CA Customer Experience Manager (CA CEM)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA eHealth® Performance Manager (CA eHealth)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS®
- CA Introscope®
- CA SiteMinder®
- CA Spectrum® Infrastructure Manager (CA Spectrum)

- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

CA Technologies 製品リファレンス

CA APM ドキュメントには、CA APM、CA Introscope®、CA CEM、および CA APM の拡張と統合の情報が含まれます。

CA Support Online (CSO) Web サイト上の CA APM マニュアル選択メニューでは、CA APM ドキュメントに含まれるすべてのタイトルを表示および検索できます。

CA APM に固有のドキュメントを以下に示します。

- *リリースノート*-- リリース サマリおよび既知の問題。
- *概要ガイド*-- CA APM のコンポーネントとアーキテクチャの概要。CA APM デプロイの際に使用される用語や概念について説明します。
- *用語集*-- CA APM およびそのドキュメントで使用される用語と略語のリスト。
- *インストールおよびアップグレードガイド*-- CA Introscope®、Enterprise Manager、APM データベース、Workstation、CA CEM、TIM のインストールおよびアップグレードの要件。
- *設定および管理ガイド*-- CA Introscope® および CA CEM の設定情報と管理情報。CA Introscope® および CA CEM のプロパティは付録に記載されています。
- *セキュリティガイド*-- CA APM、CA Introscope®、および CA CEM セキュリティ ソリューションの構成 (Embedded Entitlements Manager に関する情報を含む)。
- *CA APM サイジングおよびパフォーマンス ガイド*-- 製品およびコンポーネントのデプロイのサイジング、チューニング、およびキャパシティ プランニング。
- *トランザクション定義ガイド*-- カスタマ トランザクションを記録、定義、および検証するトランザクション定義のプロセスおよび手順。

CA Introscope® に固有のドキュメントを以下に示します。CA APM のドキュメントも CA Introscope® に関連しています。

- **CA APM Java Agent 実装ガイド**-- CA APM Java エージェントのインストール、設定、および使用方法。
- **CA APM .NET Agent 実装ガイド**-- CA APM .NET エージェントのインストール、設定、および使用方法。
- **Environment Performance Agent 実装ガイド**-- EPAgent のインストール、設定、および使用方法。
- **Workstation ユーザガイド**-- CA Introscope® メトリックの概要と説明、および CA Introscope® ダッシュボード、Investigator ツリー、アプリケーション問題切り分けマップ、Transaction Tracer、およびレポートの使用方法。
- **WebView : 問題切り分け、診断、監視シナリオ**-- **WebView** を使用して、ブラウザ インターフェイスでアプリケーションおよびコンポーネントの問題の切り分け、診断、および監視を行う方法。

- *ChangeDetector ユーザガイド*-- CA APM ChangeDetector を使用して、アプリケーションファイルと構成の変更を監視およびレポートする方法。
- *Transaction Generator 実装ガイド*-- CA APM を使用して監視できる合成トランザクションを生成するために CA APM TG を使用する方法。Web サイトおよび Web サービスの可用性、稼働状況、およびパフォーマンスを Web サイトにアクセスしようとするユーザの観点から監視します。

拡張と統合に関するドキュメント（インストール、設定、およびメトリックの説明など）を以下に示します。

- *CA APM Catalyst Connector ガイド*
- *CA APM for CA SiteMinder® SNMP Collector ガイド*
- *CA APM for CA SiteMinder® Applications Server Agent ガイド*
- *CA APM for IBM CICS Transaction Gateway Guide*
- *CA APM for IBM WebSphere Application Server for Distributed Environments Guide*
- *CA APM for IBM WebSphere Application Server for z/OS ガイド*
- *CA APM for IBM WebSphere MQ ガイド*
- *CA APM for IBM WebSphere Portal Guide*
- *CA APM for IBM z/OS® ガイド*
- *CA APM for Microsoft SharePoint ガイド*
- *CA APM for Oracle Database ガイド*
- *CA APM for Oracle WebLogic Portal Guide*
- *CA APM for Oracle WebLogic Server ガイド*
- *CA APM for SOA Performance Management 実装ガイド*
- *CA APM for Web Server ガイド*
- *CA APM CMDB 統合ガイド*
- *CA APM CA Infrastructure Management 統合ガイド*
- *CA APM NSM 統合ガイド*
- *CA Cross-Enterprise Application Performance Management 統合ガイド*

「CA APM API リファレンス ガイド」では、アプリケーションプログラミング インターフェース (API) を使ってコンシューマに公開される、CA APM 内で管理されるデータおよびコンポーネントについて説明します。

注: 一部の製品マニュアルでは、スクリーンショットにロゴやその他「Wily」への言及がありますが、CA Technologies では「Wily」は「APM」に変更されています。「Wily」ロゴは現在の APM Workstation 内では削除されているので、無視してください。図中で Wily とあるものは、CA Introscope® を意味します。

目次

第 1 章: 新機能および拡張機能	15
CA APM for Browser Response Time Monitor (BRTM)	15
CA APM WebView	16
アップグレードシナリオに関する注意事項	18
メタデータの自動削除	18
CA APM Cross-Enterprise の機能	19
CA APM for IBM CICS Transaction Gateway	19
英語版のみの CA APM 9.5	19
第 2 章: 9.1.x の機能拡張	21
WebStart Workstation のタイムゾーン表示	21
Windows 仮想 IP アドレスでのマルチホームホストのサポート	22
コマンドラインツールによる SSL キーのアップロード	23
ログメッセージを冗長モードで記録	24
非識別コンポーネントのトランザクション追跡	24
他の拡張機能	25
第 3 章: マニュアルの変更箇所	27
強化されたマニュアル選択メニュー	27
シナリオベースのコンテンツ	28
リリースノートおよび README の変更点	28
「概要ガイド」の更新	29
「サイジングおよびパフォーマンスガイド」の更新	29
「設定および管理ガイド」の更新	30
「Workstation ユーザガイド」の更新	30
「WebView ユーザガイド」および「WebView for SAP ユーザガイド」	31
第 4 章: 既知の問題	33
APM データベースの既知の問題	33
異なるタイムゾーンからのデータの移行がサポートされていない - 76238	33
Introscope の既知の問題	34
一定期間内の大量のメトリックの頻繁なメトリックエージングによるパフォーマンス問題 - 85261	34

Oracle RAC 上のエージェント 9.1.1 以降で CPU 使用率が増加する - 84418.....	34
introscope.agent.transactiontrace.componentCountClamp がエージェントを再起動しないと更新 されない - 83982	35
Enterprise Manager での StackOverflowError - 83214	35
Linux/Solaris 上の Postgres DB インストールのエラー - 82595	36
32 ビット AIX 環境で CA APM をインストールまたはアップグレードする場合に APAR が必要 - 79590	37
使用中スレッド メトリックのエラー - 76994.....	37
ResourceMetricMap.properties ファイルがアップグレード後に保持されない - 76598	38
CA APM for IBM CICS Transaction Gateway データがアプリケーション問題切り分けマップ上に 正しく表示されない - 75808.....	38
OSB 11.x でリーン エージェントを実行すると GC のサイクルが増加する - 75757.....	38
エージェント インストールで CA APM for SOA Performance Management エージェントが使用 できない - 75307	39
カスタマエクスペリエンス ノードのコンテキスト メニューの [カスタマエクスペリエンス メトリックをすべて参照] オプションを選択できない - 75115	40
IPv6 を使用している HP-UX 上での Enterprise Manager とエージェントの接続の問題 - 74118	40
ダッシュボード レンズを適用すると、ダッシュボードの編集時にデータの遅延が発生するこ とがある - 74115	41
Group Action が Critical Section 用である場合、Group Action Typeview にデータが表示されない - 73495	41
ブラウザが無応答メッセージを表示する -70260.....	42
英語以外のロケールであっても一部の管理モジュールが英語で表示される場合がある - 66173.....	42
バックエンド追跡が自動的に追加されない - 66146	43
アラート状態が正しく保持されない - 65847、66676.....	43
古い JRE を使用すると、Web Start で問題が発生する場合がある - 65351、65522.....	44
トランザクション イベント データベース (traces.db) の最適化タスクのために追加のメモリ が必要 - 64726、64908	44
グループに対するデフォルトの LDAP クエリに関する問題 - 64181.....	45
フェールオーバー EM での WatchDog の使用 - 62878.....	45
[マップ] タブでのツリーの永続性 - 61213.....	46
最初のエラーがレポートまたは表示されないときがある - 59422	46
クラスタ化された環境でのドメイン定義の問題 - 59231.....	47
WebSphere 6.1 を用いた、エージェント .jar ファイルの代替バージョンの使用 - 59086	48
OS/400 (IBMi) 上で 32 ビットと 64 ビットの JVM を切り替えると、問題が発生する場合があ る - 57774	49
アラートの使用によるシェルアクションのトリガ - 52556、60188	50
SOA 依存マップに誤解を招くデータが表示される場合がある - 49422.....	50
一部の WebSphere 7 固有クラスの追跡ディレクティブが ws70x.pbd に含まれていない - 49146	51
WebSphere 7 で追加のインスツルメンテーションを使用する場合のメモリ追加 - 48885、49328、 58653	51

Windows のプラットフォーム モニタリングに必要な Extensible Counter List ユーティリティ - 48697	52
保存したトランザクション追跡のインポートにおける問題 - 46688	52
ライブモードでのみ正しく表示される Metric Count 円グラフ - 46035	52
時系列棒グラフのラベル付けに関する問題 - 42368	53
「Partial Metrics with Data」メトリックの精度 - 41856.....	53
実行中の ManagedSocketTracing の切り替えによってエラーが発生する可能性がある - 39884.....	53
動的インスツルメンテーションでの頻繁なクラス再定義によって発生するメモリ不足の状態 - 38867、38868、63857	54
不完全な計算機によって誤解を招く内容が表示される可能性がある - 38636	54
エージェントの既知の問題	55
Java エージェントの既知の問題	55
.NET エージェントの既知の問題	60
Customer Experience Manager の既知の問題	63
CA Directory の潜在的なセキュリティ リスク - 73910.....	63
Oracle 10g 2r: 一部の CEM レポートで内部アプリケーションエラーが発生する - 66484、66485	66
記録時の値およびパターンが誤った文字で表示される - 65193	66
レポート表示の一部が PDF バージョンと一致しない - 60056.....	67
拡張および統合の既知の問題	67
AIX 上の WAS 6.1 で [Servlets] ノードが Workstation に表示されない - 84456.....	67
WebSphere Application Server でのパフォーマンスの問題 - 84238	68
プラットフォーム監視が有効な場合の CA LISA プロセスでのハンドル リーク - 82910、76289.....	69
z/OS 上の IBM WAS 7 が PMI インスツルメンテーションエラーをスローする - 81500.....	70
CTG 7.2.0.0 のワーカ プール数のメトリックが表示されない - 78486.....	70
SharePoint 2010 OSS Secure Store Tickets メトリックが不正確な場合がある - 67375.....	70
サードパーティの既知の問題	71
MQ 拡張機能の queue.filter.includeonly.regex 式での問題 - 85045	71
WebSphere Application Server 7 上のセグメント化エラー - 84988.....	71
64 ビット Linux EM システムのクロック時刻を遅らせた場合に警告が表示されないか、またはシャットダウンされない - 83106.....	72
Postgres SQL のインストール時のエラー - 82840.....	72
WebSphere Application Server 7 のアップグレード後に Introscope カスタム サービスの開始に失敗する - 82689	73
MQ Monitor/WebSphere MQ エージェントがデフォルトでキュー マネージャを監視しない - 78313	73
CTG のチャンネル追跡で SYSVIEW R13.5 に APAR R044532 が必要 - 76104	74
CA APM データベース関連のログにジャンク文字が含まれている - 73579	74
Tomcat 6.x 上にスレッドプールメトリックが見つからない - 72879.....	74
WebSphere 7 上の値が負の PMI メトリック - 72467.....	75
OOM エラーのため、IBM JDK SR10 への更新が必要 - 71618	75

z/OS 環境での誤ったメッセージブローカ ステータス - 70242.....	76
Vista 以降の OS 上での Introscope Workstation の起動での問題 - 66629.....	76
日本語版 HP-UX システムでのエクスポート済みトランザクションの再インポートに関するエラー - 65101	76
CEM UI のページを初めて表示したときにクラッシュが発生する可能性がある - 63644.....	77
OOM エラーのため、JVM 1.6u25 への更新が必要 - 63210	77
JVM のアップグレードが必要となる Sun JVM 1.6.0_16 のメモリ不足エラー - 62360.....	78
特定の JVM プラットフォームの組み合わせで起動時に問題が発生する可能性がある - 61585.....	78
Linux プラットフォームの WebSphere でエージェントの起動時に発生する問題 - 59363	79
サポートされていない Java 5 を使用する JBoss または Tomcat のアプリケーションサーバでの動的インスツルメンテーション - 58986.....	79
IBM JDK 1.6 で Java Agent を使用するには JDK のアップグレードが必要 - 53425	80
Classic JVM の OS/400 (IBMi) のエージェントでのサポート終了 - 52642、58070	80
WebLogic Server および JRockit での Introscope の実行 - 52469.....	80
IBM JDK 1.5 でエージェントを使用するに JDK のアップグレードが必要 - 47067、47451、55622	80
WebSphere MQ での動的インスツルメンテーション中の Java 例外 - 45915.....	81
64 ビット SuSe 9 システムでの JBoss の問題 - 45889	81
ストールしたステートレス プラグインが正しく終了しない場合がある - 27489、27492	81
ローカライゼーションの既知の問題	82
CEM コンソール内のグラフに文字化けした文字が表示される - 82709.....	82
Cloud Monitor および LISA のダッシュボードが部分的にローカライズされている - 76051	82
CA APM 9.1.1 の機能、拡張機能、およびバグ修正がローカライズされていない - 75810	82
凡例文字列が APM レポートでローカライズされない - 75638	83
日本語版または中国語 (簡体字) 版の Enterprise Manager で生成された CSV に文字化けしたテキストが含まれる - 72920.....	83
日本語版または中国語 (簡体字) 版の PDF に文字化けしたテキストが含まれる場合がある - 72360	83
ドキュメントの既知の問題	84
ドキュメントが誤って z/OS または OS/400 をサポートする Enterprise Manager を参照する - 84667	84

付録 A: 使用条件

85

第 1 章：新機能および拡張機能

リリース ノートのこのセクションでは、9.5 の新機能および拡張機能の概要を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA APM for Browser Response Time Monitor \(BRTM\)](#) (P. 15)

[CA APM WebView](#) (P. 16)

[メタデータの自動削除](#) (P. 18)

[CA APM Cross-Enterprise の機能](#) (P. 19)

[CA APM for IBM CICS Transaction Gateway](#) (P. 19)

[英語版のみの CA APM 9.5](#) (P. 19)

CA APM for Browser Response Time Monitor (BRTM)

CA APM for Browser Response Time Monitor (BRTM) は、エンドユーザのブラウザから主要な Web ページロードパフォーマンスメトリックを収集し、CA APM のアプリケーションパフォーマンス監視に統合します。以下のブラウザパフォーマンスメトリックが収集されます。

- DOM 構築時間 (ミリ秒)
- ページロード時間 (ミリ秒)
- 前のページのアンロード時間 (ミリ秒)
- ブラウザ表示時間 (ミリ秒) - (新しいブラウザのみ)
- ページ往復時間 (ミリ秒) - (新しいブラウザのみ)

CA APM WebView

このリリースでは、CA APM は以下をサポートします。

- **新しい APM WebView ブラウザ インターフェース。** WebView インターフェースでは、コンソール ダッシュボード、Investigator（問題切り分けマップ、メトリック ブラウザ）、ツール（Transaction Tracer、履歴 イベント ビューア、ライブ エラー ビューア）および管理機能が提供されます。重要な情報をいつでも、どこでも表示できます。
- **APM UI Performance Monitor。** この監視コンポーネントは、WebView アプリケーションのパフォーマンス メトリックを収集およびレポートします。管理者はこの情報を使用して、ユーザに影響が及ぶ前に潜在的な WebView のパフォーマンス問題を検出して分離します。たとえば、パフォーマンスの問題は、ハードウェア リソースが不足している場合（特に大規模なデータ ビューと共に使用されている場合）に発生する可能性があります。

WebView と Workstation のどちらでも Investigator およびコンソール ダッシュボードでメトリック データを表示できます。このリリースでは、ダッシュボードやレポートなどの特定の要素を作成および編集できるのは Workstation のみです。

WebView と Workstation の機能の違いを以下に示します。

機能	WebView	Workstation
Web ブラウザでの Investigator およびコンソールの表示	○	×
Investigator ツリーおよびマップ ビューでのメトリック データと Blame 情報の表示。	○	○
サンプル ダッシュボードの表示。	○	○
履歴データの表示。	○	○
ダッシュボードで、選択されたエージェントからのデータのみを表示するようフィルタリング。	×	○

機能	WebView	Workstation
ライブ データを表示するダッシュボード グラフのスケールおよび精度の変更 以下の情報を考慮します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Workstation のダッシュボード エディタ スケール オプションには、[固定値]、[自動拡大]、および [自動スケール] があります。WebView は、[固定値] と [自動スケール] のみをサポートします。Y 軸が常にゼロで始まるという点を除いて、WebView のデフォルト動作は [自動スケール] と一致しています。 ■ ダッシュボード スケール オプションの [固定値] は、Internet Explorer 8 ではサポートされていません。常に [自動スケール] モードが使用されます。[固定値] スケール オプションは、その他のすべてのサポートされているブラウザで有効です。 ■ Workstation ダッシュボードの精度オプションは、WebView ではサポートされていません。WebView では、ダッシュボードのグラフは 15 秒の精度で表示されます。この動作は、Workstation ダッシュボードの精度エディタ オプションを使用して変更することはできません。 	○	○
コンソール通知と SMTP 電子メール通知の作成	○	○
シェル コマンドと SMTP アラート通知の作成	×	○
問題切り分けマップ アラートおよび管理モジュール アラートとアクションの作成および編集	○	○
トランザクション追跡セッションおよびスレッド ダンプの実行	○	○
管理モジュール ダッシュボードおよびレポートの作成および編集	×	○

Workstation のみに可能なタスクを実行するには、「**CA APM Workstation ユーザガイド**」を参照してください。

アップグレード シナリオに関する注意事項

9.5 にアップグレードすると、新しい **WebView** の「ホーム ページ」に、以前の **APM** リリースの **問題切り分けマップ構成管理モジュール** で定義されたいくつかのグラフおよびアラート ステータスが表示されます。古いモジュールファイル (**TriageMapConfigurationsManagementModule.jar**) はアップグレード処理中に上書きされません。

WebView の「ホーム ページ」にグラフおよびアラートを表示するには、**9.5 jar** ファイルで定義されている以下の新しいメトリック グループおよびアラートをデプロイします。

- 新しいメトリック グループ
 - APM BT Average Response Time (ms)
 - APM BT Errors and Stalls
 - APM Frontends Average Response Time (ms)
 - APM Frontend Errors and Stalls

- 新しく追加された **Triage Map Backend Calls Status** アラート

TriageMapConfigurationsManagementModule.jar ファイルの新しいバージョンは、**modules-upgrade** ディレクトリにあります。前のリリースから問題切り分けマップ アラートを定義している場合は、**TriageMapConfigurationsManagementModule.jar** の新しいバージョンをデプロイし、アラートを再作成します。また、新しいホーム ページ関連のメトリック グループおよびアラートを、保存されているファイルにコピーすることもできます。

メタデータの自動削除

SmartStor の再時間区分中に、**Enterprise Manager** は、関連するメトリック データ ポイントがないメタデータ (メトリックおよびエージェントの説明) を自動的に削除するようになりました。このプロセスは、**SmartStor** の階層化時に、再利用できるようにディスクおよびメモリ容量を解放します。

CA APM Cross-Enterprise の機能

APM 9.5 では、以下を監視できるように CA APM Cross-Enterprise Introscope Workstation が機能拡張されました。

- SYSVIEW システムによって生成された CICS アラート
- SYSVIEW システムによって生成された CICS 低下分析
- SYSVIEW システムによって生成された z/OS アラート
- SYSVIEW システムによって生成された z/OS 遅延
- SYSVIEW システムによって生成された z/OS Workload Manager サービス目標

さらに、Java エージェントの HTTP トレーサには、Blame ポイント メトリック、および HTTP 通信を使用して CICS トランザクションを呼び出す Java セッションのプロセスにまたがる トランザクション 追跡が表示されます。

「CA Cross-Enterprise APM 統合ガイド」はこれらの新機能によって更新されました。

CA APM for IBM CICS Transaction Gateway

APM 9.5 では、PPCTG Agent pbd ファイル内の設定を使用して IPIC Channel および Container メトリックのモニタを手動で有効（デフォルトモード）または無効にできるように、CA APM for IBM CICS Transaction Gateway Agent が機能拡張されました。「CA APM for IBM CICS Transaction Gateway ガイド」はこれらの新機能によって更新されました。

英語版のみの CA APM 9.5

以前のリリースでは、製品およびマニュアルは翻訳されていました。リリース 9.5 は英語でのみ提供されます。言語が混在して表示されないように、すべてのユーザ インターフェースおよびクライアントに英語ロケールを選択します。

第 2 章: 9.1.x の機能拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[WebStart Workstation のタイムゾーン表示 \(P. 21\)](#)

[Windows 仮想 IP アドレスでのマルチホームホストのサポート \(P. 22\)](#)

[コマンドラインツールによる SSL キーのアップロード \(P. 23\)](#)

[ログメッセージを冗長モードで記録 \(P. 24\)](#)

[非識別コンポーネントのトランザクション追跡 \(P. 24\)](#)

[他の拡張機能 \(P. 25\)](#)

WebStart Workstation のタイムゾーン表示

以下のように `workstation.jsp` ファイルを更新して WebStart Workstation でタイムゾーンが表示されるように指定できます。

1. Enterprise Manager を開始し、Java WebStart を使用して、Workstation に接続します。

2. 以下の場所にある `workstation.jsp` ファイルを開きます。

EM インストール ディレクトリ

```
¥product¥enterprisemanager¥plugins¥com.wily.introscope.workstation.webstart_<バージョン>¥WebContent¥jnlp
```

3. デフォルトでは、`workstation.jsp` には以下の引数があります。
<argument><%=emDefaults.kTimeZoneStrings[0]%></argument>
<argument><%= "timezone"%></argument>

4. タイムゾーンを設定するには、Workstation で表示するタイムゾーンの ID を入力します。

例：

```
<argument><%=emDefaults.kTimeZoneStrings[0]%></argument>  
<argument><%= "IST"%></argument>
```

注: 無効なタイムゾーン ID を入力すると、時刻は GMT で表示されます。

5. 変更を保存します。

6. Enterprise Manager を再起動し、Java WebStart を使用して Workstation に接続します。

指定したタイムゾーンが表示されます。

Windows 仮想 IP アドレスでのマルチホーム ホストのサポート

TIM コレクションサービスを仮想 IP アドレスと関連付けることができます。TIM コレクションサービスは、デフォルトではプライマリ NIC IP アドレスにマップされます。TIM コレクションサービスを仮想 IP アドレスに関連付けるには、Enterprise Manager のプロパティファイル、`introscope.enterprisemanager.ipaddress` を指定のアドレスで更新します。

静的なルートを追加することで、送信ソケット コネクションを特定の IP アドレスにバインドすることができます。静的なルートの追加は、製品機能に必須の設定ではありません。ユーザが Enterprise Manager プロパティファイルで一度設定を行うと、すべての受信ソケット接続が仮想 IP にバインドします。WebView、Workstation およびエージェントは、仮想 IP アドレスを使用して Enterprise Manager に接続します。MOM は、ローカル ホスト IP を使用してコレクタに接続します。

ユーザが Enterprise Manager プロパティファイル、`introscope.enterprisemanager.ipaddress` の IP アドレスを更新すると、Enterprise Manager はこの IP アドレスのみをリスト表示します。

コマンドライン ツールによる SSL キーのアップロード

SSL キーのアップロードには、TESS UI の [HTTPS 設定] ページを使用する以外に、TIM でコマンドラインツールを使用する方法があります。このツールは SSL PEM キー詳細を収集し、TIM にアップロードして、TIM による HTTPS トラフィックの復号化を有効にします。

次の手順に従ってください:

1. TIM にログインします。
2. `/etc/wily/cem/tim/scripts` に移動します。
3. 以下のパラメータを指定して `sslkey_upload.sh` スクリプトを実行します。

`lprange`

Web サーバの IP アドレスの範囲を指定します。

注: MAC アドレスを入力することはできません。

`port`

Web サーバのポートを指定します。

`key file`

PEM キー ファイルの絶対パスを指定します。

`delkeyfile`

キーが TIM に正常にアップロードされたら、ローカルの PEM キー ファイルを削除します。

デフォルト: No

注: 「Yes」を入力した場合、キーが TIM に正常にアップロードされると、スクリプトによってローカルの PEM キー ファイルが削除されます。

4. `Passphrase` を入力します。
5. パラメータの詳細を確認し、「Y」を入力して続行します。
PEM キーが正常にアップロードされます。

ログメッセージを冗長モードで記録

障害およびビジネス トランザクションに関して記録されるログメッセージは、VERBOSE または DEBUG モードで記録されます。INFO モードのログメッセージには、削除されたファイル（障害、Btstats）の情報は含まれません。これにより、毎日の通常動作に関連するログメッセージ数が削減されます。

非識別コンポーネントのトランザクション追跡

非識別トランザクションでトランザクション追跡を実行できるようになりました。

- デフォルトでは、CA APM は識別トランザクションで追跡を実行し、それらのトランザクションのメトリックを生成します。CA APM は、要求ベースおよび応答ベースの両方のビジネス トランザクションでトランザクション追跡を実行します。
- 必要に応じて、非識別トランザクションを有効または無効にすることができます。
- CA APM は、非識別トランザクションのメトリックを生成しません。
- ビジネス トランザクションの遅延障害の場合、トランザクション追跡リンクは [コンポーネント タイミング情報] テーブル内に含まれています。

非識別トランザクションの監視を有効にする方法

1. CA CEM で、[管理] ページを開きます。
2. [ビジネス サービス] タブをクリックします。
3. ビジネス サービスを選択します。
4. [Introscope エージェント非識別トランザクション追跡設定] をクリックします。
5. 目的のトランザクションを選択し、[有効] および [必須] をクリックします。

注: トランザクションをすべて無効にする場合、トランザクションを [必須] としてマークし、選択内容セットを保持します。

[監視中] 列のエントリは、トランザクション監視ステータスを示します。

他の拡張機能

JDBCドライバクエリ ページング

JDBC ドライバは、非同期のメカニズムを使用してクエリを実行するようになりました。これにより、EM と JDBC ドライバの間のパフォーマンスが向上しました。

introscope.enterprisemanager.metrics.historical.limit に関する注意事項

introscope.enterprisemanager.metrics.historical.limit プロパティのデフォルト値は 120 万に設定されています。この値は、パフォーマンスに大きな影響を与えずに 500 万まで増やすことができます。(74765, 76890)

第 3 章: マニュアルの変更箇所

リリース ノートのこのセクションでは、9.5 のマニュアルの変更の概要を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[強化されたマニュアル選択メニュー](#) (P. 27)

[リリース ノートおよび README の変更点](#) (P. 28)

[「概要ガイド」の更新](#) (P. 29)

[「サイジングおよびパフォーマンスガイド」の更新](#) (P. 29)

[「設定および管理ガイド」の更新](#) (P. 30)

[「Workstation ユーザガイド」の更新](#) (P. 30)

[「WebView ユーザガイド」および「WebView for SAP ユーザガイド」](#) (P. 31)

強化されたマニュアル選択メニュー

マニュアル選択メニューは、従来の技術情報ガイドに加えてより包括的な製品情報を提供できるように拡張されました。リリース ノート、ロールベースのシナリオ、製品マニュアル、ナレッジベースの記事、教育コース、およびその他の情報へのリンクがあります。

シナリオ ベースのコンテンツ

マニュアル選択メニューでは、以下のタスクの実行に役立つシナリオベースのコンテンツが用意されています。

- CA BRTM のインストールおよび設定方法
- アラートの作成および設定方法
- サマリ アラートの作成および設定方法
- 危険アラートおよび警告アラートのアクションを作成および編集する方法
- メトリック グループの作成および設定方法
- パフォーマンスの問題を切り分ける方法
- イベントと問題を調査する方法
- サンプルダッシュボードを使用したアプリケーションの稼働状況およびパフォーマンスの監視方法
- SOA 依存マップを使用して Web サービスの問題を切り分ける方法
- CA LISA と CA APM を統合する方法
- CA LISA を使用してアプリケーション監視を強化する方法
- Cloud Monitor と APM を統合する方法
- Cloud Monitor を使用してアプリケーション監視を強化する方法
- APM UI のパフォーマンスの設定および監視方法

リリースノートおよび Readme の変更点

既知の問題を説明するドキュメント「*Readme*」は廃止されました。既知の問題は「*リリースノート*」に説明されています。

メジャーリリースまたはマイナーリリースに続くサービスパックリリースでは、「*リリースノート*」が唯一の更新ドキュメントになります。CA APM マニュアル選択メニューのその他の部分は、次のメジャーリリースまたはマイナーリリースまで更新されません。

「*リリースノート*」には、構成表 (BOM) の詳細が含まれなくなりました。代わりに、マニュアル選択メニューから構成表にリンクできます。

「概要ガイド」の更新

「概要ガイド」には「用語集」が含まれなくなりました。「用語集」は CA APM マニュアル選択メニューにあります。

「サイジングおよびパフォーマンスガイド」の更新

「CA APM サイジングおよびパフォーマンスガイド」の主な更新は以下のとおりです。

更新された APM ディスク空き容量計算機に関する情報が追加されました。

以下の新規および変更されたサポータビリティメトリックに関する情報がトピック「その他の Enterprise Manager サポータビリティメトリックの表示」に追加されました。

- Number of Dependent Calculator Input Metrics
- Number of Non dependent Calculator Input Metrics
- Calculators
 - Total Number of Evaluated Metrics
- Harvest
 - Alert Action Processing Time (ms)
 - Calculator Queries Wait Time (ms)
 - Metrics from All Agents
 - Non Calculator Queries Delivery Time (ms)
 - Non Calculator Queries Excess Time (ms)
 - Spooling Data File Write Time (ms)
 - Spooling Preparation Time (ms)
- Management Module Calculators
 - Total Number of Evaluated Metrics
- Metric Group
 - Metric Matches Per Interval
 - Queued Queries Per Interval

「設定および管理ガイド」の更新

「CA APM 設定および管理ガイド」の主な変更点は以下のとおりです。

SmartStor の再時間区分中に、Enterprise Manager は、関連するメトリックデータポイントがないメタデータ（メトリックおよびエージェントの説明）を自動的に削除するようになりました。新しいトピック「メタデータの自動削除」を参照してください。

「Command Line Workstation (CLW) Command Reference」に追加された新しいコマンドは以下のとおりです。

- List Historical Agents
- List Historical Agents (Within a Time Range)
- Turn on exact metric
- Turn off exact metric

「Workstation ユーザガイド」の更新

以下の新規および変更されたサポータビリティメトリックに関する情報が付録 A 「CA APM メトリック」の「内部サブノード」に追加されました。

- Number of Dependent Calculator Input Metrics
- Number of Non dependent Calculator Input Metrics
- Calculators
 - Total Number of Evaluated Metrics
- Harvest
 - Alert Action Processing Time (ms)
 - Calculator Queries Wait Time (ms)
 - Metrics from All Agents
 - Non Calculator Queries Delivery Time (ms)
 - Non Calculator Queries Excess Time (ms)

- Spooling Data File Write Time (ms)
- Spooling Preparation Time (ms)
- Management Module Calculators
 - Total Number of Evaluated Metrics
- Metric Group
 - Metric Matches Per Interval
 - Queued Queries Per Interval

「WebView ユーザ ガイド」および「WebView for SAP ユーザ ガイド」

「CA APM *WebView* ユーザ ガイド」 および 「*Intrroscope WebView for SAP ユーザ ガイド*」 は、アプリケーション所有者および問題切り分け担当者ロール用の一連のタスク ベース シナリオと置き換えられました。シナリオを表示するには、マニュアル選択メニューの「**WebView**: 問題切り分け、診断、監視」を参照してください。

第 4 章: 既知の問題

リリース ノートのこのセクションでは、9.5 の既知の問題について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[APM データベースの既知の問題 \(P. 33\)](#)

[Introscope の既知の問題 \(P. 34\)](#)

[エージェントの既知の問題 \(P. 55\)](#)

[Customer Experience Manager の既知の問題 \(P. 63\)](#)

[拡張および統合の既知の問題 \(P. 67\)](#)

[サードパーティの既知の問題 \(P. 71\)](#)

[ローカライゼーションの既知の問題 \(P. 82\)](#)

[ドキュメントの既知の問題 \(P. 84\)](#)

APM データベースの既知の問題

異なるタイムゾーンからのデータの移行がサポートされていない - 76238

症状:

CA APM は現在、異なるタイムゾーン間での Postgres から Oracle へのデータの移行またはリストアをサポートしていません。実行しようとすると、移行やリストアが完了せず、エラーがレポートされます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

Introscope の既知の問題

一定期間内の大量のメトリックの頻繁なメトリック エージングによるパフォーマンス問題 - 85261

症状:

以下の 2 つのプロパティを低い値に設定して、頻繁なメトリック エージングが行われると、長期にわたってメモリ使用量が増加します。

`introscope.agent.metricAging.heartbeatInterval`

ポーリング間隔を指定します。この値は、エージェントが有効期限が切れたメトリックを確認する間隔です。

デフォルト: 1800 秒

`introscope.agent.metricAging.numberTimeslices`

メトリック経過期間を指定します。これはメトリックが最後にレポートされてからの時間です。この値によって、いつメトリックがエイジアウト対象になるかが決まります。

デフォルト: 3000 タイムスライス。

解決方法:

メトリックを頻繁にエイジアウトするようにエージェントを設定しないでください。 `IntroscopeAgent.profile` でポーリング間隔およびメトリック エージング プロパティにデフォルト値以上の値を使用します。

Oracle RAC 上のエージェント 9.1.1 以降で CPU 使用率が増加する - 84418

症状:

エージェント 9.1.1 以降で、Oracle RAC クラスタの各インスタンスが個別のノードとして表示され、その結果 CPU 使用率が増加します。

解決方法:

エージェント プロファイル内で以下のプロパティを追加すると、CPU 使用率が低下する場合があります。

```
introscope.agent.sqlagent.cacheConnectionsURLs=true
```

introscope.agent.transactiontrace.componentCountClamp がエージェントを再起動しないと更新されない - 83982

症状:

プロパティが 5000 よりも小さな値に初期化されると、introscope.agent.transactiontrace.componentCountClamp プロパティが更新されません。

解決方法:

新しい値を指定した後にエージェントを再起動します。

Enterprise Manager での StackOverflowError - 83214

症状:

1000 を超えるコンポーネントでトランザクション追跡を試行すると、Enterprise Manager で StackOverflowError が発生する場合があります。以下のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR] [CLW.MessageServiceClient] Exception: java.lang.StackOverflowError  
calling method:  
com.wily.isengard.messageprimitives.service.MessageServiceCallMessage:
```

解決方法:

トランザクション追跡で許可されるコンポーネント数を 1000 に制限します。

Linux/Solaris 上の Postgres DB インストールのエラー - 82595

症状:

管理者は、Linux または Solaris 環境で既存の Postgres インストールにスキーマを作成するためにインストーラを実行すると、問題に遭遇することがあります。このような状況が発生すると、インストーラが警告なしで失敗し、ログに特定のライブラリを参照できないことが示されます。

解決方法:

以下のタスクのいずれかを実行します。

- ターゲットインストールディレクトリを元のインストールディレクトリに設定します。
- LD_LIBRARY_PATH 環境変数を設定します。
 - Linux の場合、パスは以下のとおりです。
<DB_Home>/lib
 - Solaris の場合、パスは以下のとおりです。
<DB_Home>/postgres/8.4-community/lib
および
<DB_Home>/postgres/8.4-community/lib/64

32 ビット AIX 環境で CA APM をインストールまたはアップグレードする場合に APAR が必要 - 79590

症状:

32 ビット AIX 環境で CA APM をインストールまたはアップグレードした後、APAR がすでにインストールされているかどうか判断するために以下のコマンドを実行します。

```
instfix -ivk IV16489
```

以下の結果が返ってくる場合があります。

```
There was no data for IV16489 in the fix database.
```

解決方法:

Enterprise Manager がインストールされているシステムに IBM AIX APAR IV16489 をインストールします。IBM DeveloperWorks Web サイトから APAR パッケージを取得してください。

使用中スレッド メトリックのエラー - 76994

症状:

特定の状況下で、クラスタ内のコレクタ Enterprise Manager のいずれかからエラーがスローされます。このエラーはログに「Agent Stats|Resources:Threads in Use」メトリックのエラーとして表示されます。

解決方法:

メトリックを有効にする ResourceMetricMap.properties ファイル内の行をコメント化します。

ResourceMetricMap.properties ファイルがアップグレード後に保持されない - 76598

症状:

APM バージョン 9.1.0 以降から 9.1.1.x へのアップグレード後に、インストーラが ResourceMetricMap.properties ファイルを保持できません。

解決方法:

バックアップフォルダからファイルをリストアします。

CA APM for IBM CICS Transaction Gateway データがアプリケーション問題切り分けマップ上に正しく表示されない - 75808

症状:

IBM CICS Transaction Gateway サーバが IBM CICS Transaction Gateway クライアントとは異なるホストで稼動している場合、CA APM for IBM CICS Transaction Gateway データはアプリケーション問題切り分けマップ上に正しく表示されません。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

OSB 11.x でリーン エージェントを実行すると GC のサイクルが増加する - 75757

症状:

ソケット追跡が有効な CA APM リーン エージェントを OSB 11.x プラットフォームで実行すると、GC のサイクルが増加し、パフォーマンスに影響を及ぼします。ただし、CPU またはスループットへの影響はありません。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

エージェント インストールで CA APM for SOA Performance Management エージェントが使用できない - 75307

症状:

CA APM for SOA Performance Management オプションがスタンドアロンのエージェント インストーラで利用できません。たとえばスタンドアロンエージェント インストーラでは、Sun ONE アプリケーション サーバ上の Apache CXF Web サービス用の CA APM for SOA Performance Management オプションが利用できません。Sun ONE アプリケーション サーバの IntroscopeAgentFiles-NoInstaller<バージョン>.unix.tar および IntroscopeAgentInstaller<バージョン>.tar をインストールしても、インストール ディレクトリには webservicesagent.jar は存在しません。

解決方法:

1. CA サポートの CA APM ソフトウェア ダウンロード セクションから、IntroscopeAgentFiles-NoInstaller<バージョン>allappserver.<プラットフォーム> ファイルをダウンロードします。
2. windows.zip または unix.tar ファイルをソフトウェア ダウンロード からほかのエージェント配布が含まれていないディレクトリに展開します。
3. 展開されたディレクトリ構造の ¥config ディレクトリに移動します。
¥IntroscopeAgentFiles-NoInstaller<バージョン番号>allappserver.<プラットフォーム>¥wily¥core¥config
4. CA APM for SOA Performance Management に使用するアプリケーションサーバ、たとえば Sun One に対応するファイルを選択します。
 - sunoneas7x.pbd
 - sunoneas-full.pbl
 - sunoneas-typical.pbl
5. これらのファイルを <Agent_Home>/core/ext ディレクトリにコピーします。
注: webservicesagent.jar は、デフォルトではインストール ディレクトリに存在します。
6. アプリケーション サーバを再起動します。
アプリケーションサーバによってエージェントが再起動され、CA APM for SOA Performance Management 監視を有効にするようにアプリケーションがインストールされます。

カスタマ エクスペリエンス ノードのコンテキストメニューの[カスタマ エクスペリエンス メトリックをすべて参照]オプションを選択できない - 75115

症状:

一部の CA APM 環境では、Workstation 問題切り分けマップでカスタマ エクスペリエンス ノードを右クリックして、[Customer Experience メトリックをすべて参照] を選択しても、メトリック ブラウザ ツリーの CEM メトリックには移動しません。ログ ファイルを調べると、ノードが見つからないというエラーが表示されます。

解決方法:

CEM メトリックを表示するには、[Investigator] タブに直接移動してから個別のノードに移動します。

IPv6 を使用している HP-UX 上での Enterprise Manager とエージェントの接続の問題 - 74118

症状:

IPv6 を使用してエージェントを Enterprise Manager に接続する際の問題が、HP-UX を使用する一部のユーザから報告されています。

解決方法:

IPv6 セキュリティを使用して HP-UX 上で CA Introscope コンポーネントの接続を設定するには、プロパティ `java.net.preferIPv4Stack=false` を使用して、IPv4 サポートを無効にしてください。

Enterprise Manager については、Enterprise Manager.lax ファイルで以下の行を更新します。

```
lax.nl.java.option.additional=-Xms512m -Xmx512m -Djava.awt.headless=true  
-Djava.net.preferIPv4Stack=false
```

エージェントについては、JVM コマンドラインにプロパティ

```
-Djava.net.preferIPv4Stack=false を追加します。
```

```
-javaagent:<PathToAgentJar>
```


ダッシュボード レンズを適用すると、ダッシュボードの編集時にデータの遅延が発生することがある - 74115

症状:

ダッシュボードを編集して簡易アラートを新規に追加する場合、ダッシュボードにレンズが適用されていると、新規追加したアラートのステータスデータが表示されるまでに時間がかかる場合があります。

レンズが適用されていないダッシュボードに移動すると、アラートのステータスは即座に表示されますが、それらは既存のアラートです。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

Group Action が Critical Section 用である場合、Group Action Typeview にデータが表示されない - 73495

症状:

Introscope Workstation で作業しているときは、TIBCO BusinessWorks グループの Group Action が Critical Section 用である場合、Group Action TypeView にデータが表示されません。

解決方法:

これは意図された機能です。

ブラウザが無応答メッセージを表示する -70260

症状:

Investigator に表示されるノードが多い場合、SAP WebView に以下のメッセージが表示されることがあります。

このスクリプトの実行を中止しますか?

これは、1つのレベルに多くの子ノードがある場合に予想されるブラウザ動作です。ブラウザは、DOM を処理するために時間を消費し、ページのレンダリングに遅れが発生します。

解決方法:

スクリプトの実行を中止しないで、ノードがすべて表示されるまで実行を継続させます。この処理中に、エラーメッセージが数回表示される場合があります。しかし、スクリプトを中止しないでください。

英語以外のロケールであっても一部の管理モジュールが英語で表示される場合がある - 66173

症状:

日本語クライアントからコマンドライン Workstation コマンドを英語の Enterprise Manager に使用して管理する場合、英語と日本語の両方で定義されている管理モジュール (Introscope に付属の一部のサンプルダッシュボードを含む) が、日本語のクライアント上でであっても英語で表示される場合があります。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

バックエンド追跡が自動的に追加されない - 66146

症状:

CEM から自動トランザクション追跡を実行し、トランザクションがフロントエンドのフィルタに一致する場合、CEM に自動的にバックエンド追跡情報が含まれません。この問題が発生するのは、追跡の数が多すぎて Enterprise Manager に過大な負荷がかかるのを防ぎ、パフォーマンスを向上させるためです。

解決方法:

トランザクション追跡にバックエンド追跡のデータ（たとえば、SYSVIEW 拡張機能からのデータ）を追加する場合は、すべてのエージェントに関して `introscope.agent.transactiontracer.tailfilterPropagate.enable=true` を設定することにより、それらを有効にします。また、Introscope からトランザクション追跡を実行する場合は、バックエンドエージェント上で 2 つ目の追跡を実行できます。

SYSVIEW 拡張機能がインストールされている場合は、既存のフロントエンド追跡から新しいバックエンド追跡を起動し、事前に [トランザクション追跡] ダイアログ ボックスで関連する追跡の詳細を設定することもできます。詳細については、「*CA Cross-Enterprise Application Performance Management 統合ガイド*」の「既存のセッションからの新しいバックエンドトランザクション追跡セッションの起動」を参照してください。

追跡の数が多すぎたり、連続して実行しすぎたりすると、Enterprise Manager をフラッディングさせて動作を停止させる可能性があります。

アラート状態が正しく保持されない - 65847、66676

症状:

アラート状態が変化すると、その状態が保持されないことがあり、その結果、Alert Prev State の値が不正確になることがあります。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

古い JRE を使用すると、Web Start で問題が発生する場合があります - 65351、65522

症状:

Workstation を Web で起動する方法を使用すると、エラーが発生し、「アプリケーションを起動できません」というメッセージが表示されることがあります。[See Details] をクリックすると、「ファイルが見つかりません」というメッセージが表示されますが、誤りです。

解決方法:

JRE 6 アップデート 21 をインストールします。場合によっては、ブラウザが正しいバージョンを使用するように、その他の JRE 6 アップデートをアンインストールする必要があります。

トランザクション イベント データベース (traces.db) の最適化タスクのために追加のメモリが必要 - 64726、64908

症状:

CPU 要件に加えて、トランザクション イベント データベース (traces.db) には、最適化タスクを実行するために定期的にディスク空き容量を増やす必要があります。適切なディスク空き容量がないと、トレース データベースのパフォーマンスが低下したり、トランザクション追跡のデータが破損したりすることがあります。

解決方法:

追加のディスク使用は一時的なもので、traces.db ファイルの現在のサイズのおよそ 2 倍を必要とします。

グループに対するデフォルトの LDAP クエリに関する問題 - 64181

症状:

LDAP を介してユーザを認証するように Introscope を設定し、`groupMemberQuery` 属性に値が明示的に割り当てられていないか、未定義の場合、デフォルトでは Introscope は LDAP ユーザの認証時に以下の値を使用します。

```
groupMemberQuery=(&(objectClass=groupOfUniqueNames)(uniquemember={0}))
```

使用している LDAP サーバによっては、「uniquemember」にインデックスが付けられずに、LDAP サーバで完全なスキャンが開始されることがあります。このスキャンによって、Enterprise Manager 側と LDAP 側の両方でパフォーマンスの問題が発生することがあります。

解決方法:

サーバ設定に基づいて、デフォルト値を適切に変更します。

フェールオーバー EM での WatchDog の使用 - 62878

症状:

フェールオーバー用に構成された Enterprise Manager クラスタでは、一部の WatchDog コマンドが予想通りに動作しない場合があります。

解決方法:

Enterprise Manager ホーム ディレクトリの少なくとも 1 レベル上に NFS 共有ドライブをマウントします。

[マップ]タブでのツリーの永続性 - 61213

症状:

[問題切り分けマップ] タブには、フロントエンド別ツリーおよびビジネス サービス別ツリーのノードが表示される場合があります。こうしたノードは、これらのアプリケーション/ビジネス サービスにメトリックを提供したエージェントが停止されたときでも、存続します。

解決方法:

Enterprise Manager を再起動すると、ノードがそれぞれのツリー階層に表示されなくなります。

最初のエラーがレポートまたは表示されないときがある - 59422

症状:

エージェントが起動した後、監視対象の最初のトランザクションがエラーをスローした場合、Enterprise Manager がエラーをレポートしません。Investigator にエラーが表示されません。最初のエラーの後のエラーはレポートされ、表示されます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

クラスタ化された環境でのドメイン定義の問題 - 59231

症状:

クラスタ環境で CEM コンソールを使用してエージェント フィルタを設定し、ビジネス サービス定義に加えるエージェントを制限している場合、MOM Enterprise Manager のドメイン定義がコレクタ Enterprise Manager のドメイン定義と一致していない場合に問題が発生する可能性があります。そのため、ビジネス定義が目的のエージェントに送信されない場合があります。

解決方法:

MOM Enterprise Manager 上の domains.xml ファイル内にドメイン定義を作成し、クラスタ内の各コレクタ Enterprise Manager にこのファイルをコピーし、次に各 EM を再起動します。ただし、これを行う前に、「CA APM セキュリティガイド」の「エージェントの定義とドメインへのマッピング」を参照してください。

WebSphere 6.1 を用いた、エージェント .jar ファイルの代替バージョンの使用 - 59086

IBM JVM 1.5 を使用して WebSphere 6.1 上で Java エージェントを実行している場合は、別のバージョンの Java Agent.jar ファイルおよび Java エージェントプロファイルを使用します。その *AgentNoRedef.jar* および *IntroscopeAgent.NoRedef.profile* という名前のファイルは、`<Agent_Home>/wily` ディレクトリにあります。

注: AllAppServer エージェントの配布を使用している場合、代替プロファイルは *IntroscopeAgent.websphere.NoRedef.profile* という名前です。

IBM JVM 1.6 を使用して、z/OS 上の WebSphere 7.0 で Java エージェントを実行している場合、`-Xbootclasspath` および `-javaagent` コマンドを使用します。例:

```
-Xbootclasspath/a:<Agent_Home>/Agent.jar -javaagent:<Agent_Home>/Agent.jar
-Dcom.wily.introscope.agentProfile=<Agent_Home>/IntroscopeAgent.profile
```

WAS バージョン 7

OS	JVM バージョン	使用する引数	使用する .jar ファイル	完全な引数の例
UNIX Windows OS/400 (IBMi)	IBM 1.6	-javaagent	Agent.jar	以下の例 A を参照
UNIX Windows	SUN 1.6	-javaagent	Agent.jar	以下の例 A を参照
UNIX Windows	HP 1.6	-javaagent	Agent.jar	以下の例 A を参照
z/OS	IBM 1.6	-Xbootclasspath および -javaagent	Agent.jar	以下の例 B を参照

WAS バージョン 6.1

OS	JVM バージョン	使用する引数	使用する .jar ファイル	完全な引数の例
UNIX Windows z/OS OS/400 (IBMi)	IBM 1.5	-javaagent	AgentNoRedef.jar	以下の例 C を参照

UNIX Windows	SUN 1.5	-javaagent	Agent.jar	以下の例 A を参照
UNIX Windows	HP 1.5	-javaagent	Agent.jar	以下の例 A を参照

例 A

```
"-javaagent:<wilyhome>/Agent.jar  
-Dcom.wily.introscope.agentProfile=<wilyhome>/IntroscopeAgent.p  
rofile"
```

例 B

```
"-Xbootclasspath/a:<wilyhome>/Agent.jar  
-javaagent:<wilyhome>/Agent.jar  
-Dcom.wily.introscope.agentProfile=<wilyhome>/IntroscopeAgent.p  
rofile"
```

例 C

```
"-javaagent:<wilyhome>/AgentNoRedef.jar  
-Dcom.wily.introscope.agentProfile=<wilyhome>/IntroscopeAgent.N  
oRedef.profile"
```

OS/400 (IBMi) 上で 32 ビットと 64 ビットの JVM を切り替えると、問題が発生する 場合がある - 57774

症状:

Introscope エージェント ユーザが OS/400 プラットフォーム上で 32 ビットと 64 ビットの JVM を切り替えると、記録や動的インスツルメンテーションに問題が発生する場合があります。

解決方法:

Enterprise Manager を再起動します。

アラートの使用によるシェルアクションのトリガ - 52556、60188

症状:

特定のバッチ ファイルを呼び出すシェルアクションを作成し、そのアクションをトリガするアラートが頻繁に発生する場合、以下のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

```
"Action 'Test' failed to execute shell command 'C:¥Introscope9.0¥test.bat' with bad process exit value '1' (アクション 'Test' が、不正な終了値でシェルコマンド 'C:¥Introscope9.0¥test.bat' の実行に失敗しました)"
```

解決方法:

IntroscopeEnterpriseManager.properties ファイルを編集し、以下のように *introscope.enterprisemanager.maxConcurrentActions* の値をデフォルトの 5 (シェルコマンドを完了するにはプロセスの数が多すぎる) から 1 に変更します。

```
introscope.enterprisemanager.maxConcurrentActions=1
```

この解決方法には潜在的なマイナス面がいくつかあるので、この問題が発生した場合に限り実行してください。

SOA 依存マップに誤解を招くデータが表示される場合がある - 49422

症状:

SOA 依存マップを使用していると、ライブ モードからヒストリカルモードに切り替えた後に、一部の *Investigator* ノードで誤解を招くデータが表示される場合があります。選択された履歴期間内で依存性が検出されなかった場合でも、マップが表示されたままである場合があります。

このような状況は、次の *Investigator* ノードのいずれかを選択したときに該当します: *Agent*、*Virtual agent*、*WebServices*、*WebServices|Client*、*WebServices|Server*、または *WebServices|Client*、*WebServices|Server* ノード以下の個々のサービスまたはオペレーション。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

一部の WebSphere 7 固有クラスの追跡ディレクティブが ws70x.pbd に含まれていない - 49146

症状:

WebSphere 7 インストール環境では、J2EE のクラス/インターフェースを実装する WebSphere 7 固有のクラスに使用する追跡ディレクティブが ws70x.pbd に含まれていません。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

WebSphere 7 で追加のインスツルメンテーションを使用する場合のメモリ追加 - 48885、49328、58653

症状:

WebSphere 7 を使用していて例外追跡や LeakHunter などの追加のインスツルメンテーションをオンにすると、OOM エラーが発生する場合があります。

解決方法:

JVM に使用可能なメモリを増やします。WebSphere アプリケーションサーバで、JVM の最大ヒープサイズを 1 GB 以上に設定します。

Windows のプラットフォーム モニタリングに必要な Extensible Counter List ユーティリティ - 48697

症状:

システム オブジェクトが perfmon ユーティリティで有効にされた後でも、Windows のプラットフォーム モニタリングが動作しない場合があります。

解決方法:

Windows プラットフォーム モニタには、Extensible Counter List ユーティリティが必要です。このユーティリティは、

http://download.microsoft.com/download/win2000platform/excrlst/1.00.0.1/nt5/en-us/excrlst_setup.exe から入手できます。

ユーティリティをダウンロードしたら、以下の手順に従います。

1. excrlst_setup.exe を実行します。
2. プロセッサ用の PerfProc とプロセス パフォーマンス オブジェクト用の PerfOs パフォーマンス カウンタを有効にします。

保存したトランザクション追跡のインポートにおける問題 - 46688

症状:

保存したトランザクション追跡をインポートするときに問題が発生することがあります。

解決方法:

回避策については、<http://support.ca.com> のナレッジ ベースの記事 1714 を参照してください。

ライブ モードでのみ正しく表示される Metric Count 円グラフ - 46035

症状:

文字列からなるメトリック データは SmartStor に保存されないため、[メトリック数] 円グラフと付属の表は履歴モードで正しいメトリック数をレポートしません。

解決方法:

[メトリック数] 円グラフはライブ モードでのみ表示します。

時系列棒グラフのラベル付けに関する問題 - 42368

症状:

レポートで、項目ラベルが、メトリックグループでシリーズを識別できない一意の名前でない場合、時系列の棒グラフに誤解を招くデータラベルが含まれることがあります。

解決方法:

シリーズの識別のキーとして `$agentname` を使用するのを避け、エージェントの完全修飾名を使用してください。

「Partial Metrics with Data」メトリックの精度 - 41856

症状:

Enterprise Manager が自身のパフォーマンスに関する内部メトリックを追跡する方式上の理由により、Partial Metrics with Data メトリック (パス `CustomMetricAgent|EM|Connection|DataStor|MetaData:"Partial Metrics with Data"` にサポータビリティメトリックの一部として表示されます) は、おおよその値を表すものをご理解ください。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

実行中の ManagedSocketTracing の切り替えによってエラーが発生する場合があります - 39884

症状:

動的インスツルメンテーションは、ManagedSocketTracing グループで使用される Class Substitution の変更をサポートしません。このため、実行中に ManagedSocketTracing を切り替えようとすると、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Unsupported change to active AutoProbe configuration. Using existing configuration.
```

解決方法:

.pbd ファイルを変更した後に JVM を再起動します。

動的インスツルメンテーションでの頻繁なクラス再定義によって発生するメモリ不足の状態 - 38867、38868、63857

症状:

Enterprise Manager の再起動が早すぎると、一部のオペレーティング システム (特に Linux) では起動できないことがあります。Enterprise Manager のシャットダウン後に再起動するのが早過ぎると、起動できずに誤ったエラー メッセージが表示されることがあります。これは、OS が Enterprise Manager のサーバポート (5001) の開放を終えていないためです。

解決方法:

`introscope.enterprisemanager.serversockets.reuseaddr` プロパティを `true` に設定します。これにより、以前の接続がタイムアウト状態になってもソケットがバインドされます。ただし、この方法では 2 台の Enterprise Manager が同じポートを使用しないようにする保護策が含まれなくなるため、注意が必要です。

`introscope.enterprisemanager.serversockets.reuseaddr` を有効にしない場合は、ソケットの `TIME_WAIT` 状態が終わるまで待ってください。ソケットが閉じられると、ソケットは `TIME_WAIT` 状態になります。ソケットの `TIME_WAIT` 状態の持続時間はシステムによって異なりますが、一般的に 120 秒です。

不完全な計算機によって誤解を招く内容が表示される場合がある - 38636

症状:

不完全な JavaScript 計算機によって作成されたメトリックが Investigator ツリーに残り、データがレポートされていなくてもアクティブとして表示されます (グレー表示されません)。

解決方法:

問題のない計算機を作成します。

エージェントの既知の問題

Java エージェントの既知の問題

JBoss 7 でエージェントが起動しない - 84396、76212

症状:

ORACLE/SUN JDK 1.6 アップデート 15 以降のバージョンを使用すると、エージェントが起動しません。これは JBoss 7 のログャの問題で、ログを記録するすべてのエージェントに共通の問題です。

解決方法:

この問題を解決するには、以下の回避策のいずれかを使用します。

1. ORACLE/SUN JDK 1.6 Update 14 またはそれ以前のバージョンを使用します。
2. エージェントプロファイルで WILY エージェントのログを無効にし、サーバを起動します。サーバが起動したら、ログを有効にします。
3. JBoss 起動スクリプトをテキストエディタで開き、以下のように更新します。

```
set JAVA_OPTS= %JAVA_OPTS%
-Djboss.modules.system.pkgs=org.jboss.logmanager,com.wily,com.wily.*
-Djava.util.logging.manager=org.jboss.logmanager.LogManager
-javaagent:%JBOSS_HOME%\wily\Agent.jar
-Dcom.wily.introscope.agentProfile=%JBOSS_HOME%\wily\core\config\IntroscopeAgent.
profile
-Xbootclasspath/p:%JBOSS_HOME%\modules\org\jboss\logmanager\main\jboss-logmanager
-1.2.2.GA.jar;%JBOSS_HOME%\modules\org\jboss\logmanager\log4j\main\jboss-logmanag
er-log4j-1.0.0.GA.jar;%JBOSS_HOME%\modules\org\apache\log4j\main\log4j-1.2.16.jar
```

Java エージェントから不正確な Connection Count メトリックがレポートされる - 81200

症状:

Connection Count メトリックの現在の定義によれば、このメトリックはメモリ内のライブ接続オブジェクト数のみをレポートすることになっています。しかし、このメトリックによってメモリ内の接続数（オープン/クローズ）がレポートされます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。CA Technologies では、この問題の修正方法について現在調査中です。

JBOSS 6 で boot.log が作成されない - 76007

症状:

JDK 1.6 アップデート 15 以降のバージョンを使用すると、boot.log が JBOSS アプリケーションサーバで作成されません。これは、ログを記録するすべてのエージェントに共通の問題です。

解決方法:

この問題を解決するには、以下の回避策のいずれかを使用します。

1. JDK 1.6 Update 14 またはそれ以前のバージョンを使用します。
2. エージェントプロファイルで WILY エージェントのログを無効にし、サーバを起動します。
3. サーバが起動したら、ログを有効にします。

Oracle バックエンド メトリックが予期しないノード (Type 2 JDBC ドライバ) の下に表示される - 75901

症状:

jdbc URL を以下の例のように 1 つの「host」文字列が含まれるように指定すると、[Backends] ノードの下のメトリックが、<SID><ホスト名>-port (Oracle DB) の形式ではなく、<実際のホスト名>-(Oracle DB) の下に表示されます。この問題は、Type 4 JDBC ドライバに接続している、Oracle スタンドアロンデータベースおよび RAC データベースで確認されています。同じ動作は、Type 2 JDBC ドライバに接続する Oracle RAC データベースでも確認されています。

例:

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=<ホスト名>)(PORT=port1)) (CONNECT_DATA=(SERVICE_NAME=<サービス名>) (SERVER=DEDICATED)))
```

注: SID は、SID またはサービス名のいずれかで置き換えられます。

解決方法:

jdbc URL を以下の形式で指定する必要があります。

RAC データベースの場合

```
jdbc:oracle:[thin/oci]:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST=<ホスト名 a>)(PORT=port1)) (ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST= <ホスト名 b>)(PORT=port2)) (ADDRESS=(PROTOCOL=TCP) (HOST= <ホスト名 c>)(PORT=port3)) (CONNECT_DATA=(SERVER=DEDICATED) (SERVICE_NAME=<サービス名 AAA>)))
```

スタンドアロンデータベースの場合

```
jdbc:oracle:thin:@hostnamea:port1:sidA
```

Oracle バックエンド メトリックが予期しないノード (Type 2 および Type 4 JDBC ドライバ) の下に表示される - 75900

症状:

アプリケーションがどのバックエンド RAC データベースのノードに接続されているかに関係なく、[Backends] ノード以下のメトリックが単一のノードの下に表示されます。この情報は、Type 2 および Type 4 JDBC ドライバの両方に関連します。

例:

```
jdbc:oracle:thin:@<hostname>:port:<SID>
```

注: SID は、SID またはサービス名のいずれかで置き換えられます。

解決方法:

RAC 接続文字列または URL を RAC URL の標準形式で指定する必要があります。例:

```
jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=<hostamea>)(PORT=port1))(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=<hostameb>)(PORT=port2))(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=<hostamec>)(PORT=port3))(CONNECT_DATA=(SERVER=DEDICATED)(SERVICE_NAME=<serviceNameAAA>)))
```

jBoss 7 アプリケーションでのインストルメントでのエラー - 75783

症状:

JBoss 7 アプリケーションでインストルメントを行うエージェントを使用していると、エージェントログに以下のようなエラーが記録されている場合があります。

```
12/03/29 14:34:11 IST [ERROR] [IntroscopeAgent.Agent] A problem occurred while attempting to Introscope-enable com/test/SingletonSBean$$$view2: com.wily.diagnos.personality.java.classfile.constants.DGClassConstant cannot be cast to com.wily.diagnos.personality.java.classfile.constants.DGUtf8Constant
```

解決方法:

この問題に回避策はありません。このメッセージを無視しても機能上の問題はありません。

BCI が一部の EJB アプリケーションで失敗する - 75733

症状:

EJB コンテナによって生成される動的なプロキシクラスをインストルメントするときに、`CLASSCASTEXCEPTION` が表示されることがあります。

解決方法:

ログ ファイル内での例外を回避するために、そのクラスをスキップします。機能上の問題はありません。

たとえば、以下のようになります。

PBD ファイルを作成するか、または `jboss4x.pbd` ファイルを編集し、エラーが表示されているクラスの `Skip` ディレクティブを追加します。

```
SkipClass: org.jboss.as.quickstarts.singleton.Counter$$$view13
```

```
SkipClass: com.test.SingletonSBean$$$view3
```

オプションのキーワード「Port」が指定されていない JDBC URL のノード名が正しくない - 75328

症状:

[Backends] ノードにアクセスすると、以下の形式のノード名が表示されることがあります。

```
<SID>-<HostName>-CA Portal (Oracle DB)
```

ポート番号が URL に示されていない場合、この形式は以下の形式に変換されます。

```
<SID>-<ホスト名>- (Oracle DB)
```

解決方法:

Oracle データベース URL または接続文字列にはポート番号を含める必要があります。

CA APM のパフォーマンス改善に関する説明 - 73540

症状:

CA APM Java エージェントを使用して Sun JVM RHEL をインストルメントする場合、JVM でマルチスレッドへの依存度が大きいアプリケーションを実行すると、スレッドがタスクを（ほかのスレッドで待機させたりブロックしたりせずに）常に実行するため、ほかの CA APM 環境で得られるようなメモリ改善の一部が得られない場合があります。ただし、スループットや応答時間の改善は体験できます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

.NET エージェントの既知の問題

LeakHunter が実行されていると動的インストルメンテーションがサポートされない - 85251

症状:

LeakHunter の実行中に .NET アプリケーションで動的インストルメンテーションを有効にすると、アプリケーションが不安定になります。

解決方法:

.NET アプリケーションで動的インストルメンテーションを有効にする場合、IntroscopeAgent.profile で *introscope.agent.leakhunter.enable=false* を設定して LeakHunter を無効にします。

.NET エージェントの 2 つの異なるプロセスでクライアントソケット メトリックがクライアントおよびサーバに対して表示されない - 85108

症状:

クライアントおよびサーバソケット要求が同じワーカ プロセス内で行われると、クライアントおよびソケットの両方のメトリックが同じサーバソケット ノードの下に表示されます。クライアントソケットメトリックはクライアントソケット ノードの下に表示されず、代わりに Investigator ツリーのサーバソケット ノードに表示されます。

クライアントおよびサーバソケット アプリケーションが両方とも同じホスト上で別のワーカ プロセスで実行されている場合、クライアントソケットメトリックが Investigator ツリーのクライアントプロセスのサーバソケット ノードの下に表示されます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

.NET エージェントの再起動後にコレクタおよびクラスタが不安定になる - 84704

症状:

HTTP(S) 通信を使用してコレクタに接続された .NET エージェントが連続して再起動されると、コレクタが不安定になることがあります。エージェントが再起動すると、Enterprise Manager の CPU 使用率が通常の収集期間より長い間急増することがあります。収集期間が長くなると、一定期間クラスタが不安定になります。

解決方法:

複数の .NET エージェントを連続して再起動する場合、各再起動間に少なくとも 5 分待機します。

.NET エージェントの再起動時に、ChangeDetector フォルダが削除されない - 81478

症状:

ChangeDetector を使用するよう設定された .NET エージェントを再起動すると、スタック エラー メッセージが表示される場合があります。このエラーは、古い `change_detector` フォルダが削除されなかったことが原因で発生します。ChangeDetector は再起動後に変更を更新できません。

解決方法:

.NET エージェントを再起動する前に `change_detector` フォルダを削除します。

.NET エージェントから不正確な Connection Count メトリックがレポートされる - 81326、80317

症状:

Connection Count メトリックの現在の定義によれば、このメトリックはデータベースに対するバックエンド接続の数をレポートすることになっています。しかし、このメトリックによってメモリ内の接続数（オープン/クローズ）がレポートされます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。CA Technologies では、この問題の修正方法について現在調査中です。

NativeProfiler 使用時の .NET 2.0 SP2 へのアップグレード - 56313

症状:

LeakHunter 拡張機能が有効な場合、.NET Framework 1.1、2.0、または 2.0 SP1 に NativeProfiler を使用すると、アプリケーションが不安定になることがあります。

解決方法:

.NET Framework 2.0 SP2 にアップグレードします。.NET Framework 3.5 を使用している場合は、.NET Framework 2.0 SP2 に付属する .NET Framework 3.5 SP1 にアップグレードします。

切断されたエージェントが表示され続ける場合がある - 52637

症状:

エージェントが Enterprise Manager から切断されると、Workstation エージェント ツリー内のそのアイコンがグレーになります。通常、これは 4 ～ 5 秒以内に発生します。ただし、ネットワークのトポロジ、ネットワーク上のトラフィックの量、OS 上の TCP/IP 設定、エージェントハードウェアの全負荷、およびエージェントが監視しているアプリケーション

(Microsoft IIS など) のソケット設定に応じて、Enterprise Manager に接続が切断されたことが通知されるまで 30 ～ 45 秒かかることがあります。その間、エージェントがまだ接続されているように見えても、新しいデータは Workstation に表示されません。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

Customer Experience Manager の既知の問題

CA Directory の潜在的なセキュリティリスク - 73910

症状:

CA Directory には潜在的なリスクがあります。リモート攻撃者がサービス妨害状態を発生させる可能性がある脆弱性が存在します。この脆弱性に対応するための改善策が用意されています。

この脆弱性 (CVE-2011-3849) は、境界値のチェックが不十分なために発生します。リモート攻撃者は、クラッシュを発生させる SNMP パケットを送信できます。

以下の製品が影響を受けます。

- CA Directory r12 SP1-SP7
- CA Directory 8.1
- インストールメディアに CA Directory をバンドルする以下の CA 製品
- CA Identity Manager
- CA SiteMinder
- CA Single Sign-On

- CA DLP
- CA Clarity PPM
- CA Embedded Entitlements Manager 8.4.409（8.4 SP4 CR09）以前

注: CA Embedded Entitlements Manager は以下の製品と共に配布されます。

- CA Aion
- CA APM
- CA Asset Portfolio Management
- CA Audit
- CA Automation Suite for Data Centers
- CA Client Automation
- CA Configuration Automation
- CA Directory
- CA eHealth
- CA Infrastructure Management
- CA Introscope
- CA IT Asset Manager
- CA Process Automation
- CA Service Catalog
- CA Service Desk Manager
- CA Service Metric Analysis
- CA Service Operations Insight
- CA Software Compliance Manager
- CA User Activity Reporting Module
- CA Virtual Automation
- CA Virtual Automation for IM
- CA Workflow
- CA Workload Automation
- CA Workload Control Center

CA Embedded Entitlements Manager がインストールされているときは、個々の製品の実装方法によって、CA Directory がデフォルトで使用される場合とされない場合があります。このリストにある製品のいずれかをインストールしている場合は、製品のインストールガイドまたは実装ガイドで、CA Directory 固有の詳細情報を確認してください。

以下の CA 製品は影響を受けません。

- CA Directory r12 SP7 CR1 以降
- CA Embedded Entitlements Manager r12

インストール環境が影響を受けるかどうかを判定するには、コマンドラインで「dxserver version」コマンドを実行して、dxserver のバージョンを確認します。バージョン 6279 より前のすべてのバージョンが影響を受けます。

解決方法:

CA Directory については、SP7 CR1 (ビルド 6279) にアップグレードします。CA Directory ソリューションおよびパッチは、以下の Web サイトから入手できます。

<https://support.ca.com/irj/portal/anonymous/phpsupcontent?contentID=%7bED89688A-C7A2-4FE9-85D9-1272D345A658%7d>

CA Embedded Entitlements Manager 8.4.409 (8.4 SP4 CR09) 以前を含む製品については、ディレクトリの SNMP に脆弱性がある EEM サーバを保護する手順が以下に記載されています。

<https://support.ca.com/irj/portal/anonymous/phpsupcontent?contentID=%7b0C234958-A014-4435-9EA9-3A39F2866D48%7d>

この脆弱性は、CA Directory の SNMP パケットの解析に関連しています。このリスクを軽減するには、DSA のナレッジ設定セクションで「set snmp-port」の行を削除して、SNMP ポートを無効にします。ユーザ管理に CA Embedded Entitlements Manager を使用している CA APM ユーザに対しては、SNMP ポートを無効にする方法を採用します。

Oracle 10g 2r: 一部の CEM レポートで内部アプリケーション エラーが発生する - 66484、66485

症状:

APM データベースが Oracle 10g r2 プラットフォームで実行されている場合、一部の CEM レポート内の一部のリンクによって内部アプリケーション エラーが発生することがあります。

たとえば、このエラーは、ユーザ傾向およびユーザ SLA レポートのログイン名リンク、およびユーザ傾向レポートのユーザ グループ名で発生しています。

解決方法:

Oracle 10g 2r に最新のパッチ (10.2.0.5 以上) を適用します。

記録時の値およびパターンが誤った文字で表示される - 65193

症状:

Cookie が Unicode でエンコードされ、ビジネス アプリケーションで別の文字エンコードが使用されると、記録時の値とパターンが [コンポーネント] ページ ([ビジネス サービス] - [ビジネス トランザクション] - [トランザクション] - [コンポーネント]) に正しく表示されません。

たとえば、以下のようになります。

Cookie 値が Unicode でエンコードされ、ビジネス アプリケーションで EUC-KR 文字エンコードを使用した場合、 [コンポーネント] ページで、Cookie の記録された値がその Unicode 表現で表示されます。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

レポート表示の一部が PDF バージョンと一致しない - 60056

症状:

UI に表示される CEM レポートは、すべての場合で PDF レポートと一致するわけではありません。たとえば、[CEM] - [パフォーマンス レポート] では、いくつかの列が UI には表示されますが、PDF レポートには表示されません。[CEM] - [サービス レベル管理] - [ビジネス価値] レポートでは、UI に表示される大きな数値が PDF レポートでは切り捨てられるか、表示されません。

解決方法:

PDF レポートの代わりに CEM コンソール UI レポートを使用します。

拡張および統合の既知の問題

AIX 上の WAS 6.1 で [Servlets] ノードが Workstation に表示されない - 84456

症状:

-Xbootclasspath オプションを使用して AIX 上の WAS 6.1 でエージェントを設定すると、[Servlets] ノードが表示されません。

解決方法:

-javaagent オプションを使用して、エージェントを設定します。

WebSphere Application Server でのパフォーマンスの問題 - 84238

症状:

WebSphere Application Server を使用すると、パフォーマンスの問題が発生することがあります。

解決方法:

パフォーマンスを向上させるために、AgentNoRedef.jar をインストールします。パフォーマンスが向上しない場合は、以下のいずれかの jar をインストールします。

- AgentNoRetrans.jar
- AgentNoRedefNoRetrans.jar

重要: いずれかの jar を使用する場合は、IntroscopeAgent.profile ではなく、IntroscopeAgent.NoRedef.profile でエージェントを設定します。

プラットフォーム監視が有効な場合の CA LISA プロセスでのハンドルリーク - 82910、76289

症状:

Windows プラットフォームでは、プラットフォーム監視を含める設定で Introscope エージェントがインストールされている CA LISA プロセスで「ハンドル」リークが引き起こされる既知の問題があります。これは、関連するメモリリークではないようです。つまり、重大な問題の発生を回避するためには、ハンドルが使い果たされるまでに CA LISA プロセスが実行し続ける必要がある時間を十分に長く設定する必要があります。

解決方法:

ハンドルの不足が問題になる場合は、インストールされている CA LISA プロセスをすべて停止し、<AGENT_HOME>\core\ext ディレクトリから以下の 4 つのファイルを削除してから、CA LISA プロセスを再起動します。

- introscopeWindowsIntelAmd32Stats.jar
- introscopeWindowsIntelAmd32Stats.dll
- introscopeWindowsIntelAmd64Stats.jar
- introscopeWindowsIntelAmd64Stats.dll

注: プラットフォーム監視を削除すると、CA LISA プロセスで CPU 使用率メトリックがレポートされなくなります。そのため、[CA LISA の概要] ダッシュボードおよび CA LISA レポート内のグラフとアラートに基づく CPU 使用率は空になります。LISA テストに関連するメトリックの追跡は、この回避策によって影響されません。

CA Technologies では、この問題の解決方法について現在調査中です。

z/OS 上の IBM WAS 7 が PMI インstrumentation エラーをスローする - 81500

症状:

Introscope カスタム サービス (WebAppSupport.jar からの com.wily.introscope.agent.pmi.PMIDataPoller) および IBM WAS 拡張カスタム サービス (PowerpackForWebSphere_Agent.jar からの com.wily.powerpack.websphere.agent.pmi.PPPMIDataPoller) の両方がインストール済みであり、同時実行が有効である場合、両方のサービスは、同じ名前異なるタイプの PMI (Performance Monitoring Infrastructure) メトリックをレポートします。このシナリオによって、PMI メトリックデータの処理またはアクセス時に競合エラーが発生します。

解決方法:

両方のカスタム サービスを同時に実行しないでください。

CTG 7.2.0.0 のワーカプール数のメトリックが表示されない - 78486

症状:

CTG 7.2.0.0 のワーカプール数のメトリックが表示されません。

解決方法:

CTG 7.2.0.3 にアップグレードします。

SharePoint 2010 OSS Secure Store Tickets メトリックが不正確な場合がある - 67375

症状:

SharePoint Portal 拡張機能では、SharePoint 2010 OSS Secure Store Tickets メトリックで、以下の不正確なデータが表示される場合があります。

- Tickets issued per second
- Tickets redeemed per second

解決方法:

この問題に回避策はありません。

サードパーティの既知の問題

MQ 拡張機能の `queue.filter.includeonly.regex` 式での問題 - 85045

症状:

サードパーティ製品の問題のため、MQ 拡張機能の `MQMonitor.properties` で使用される `queue.filter.includeonly.regex` 式で使用できる特殊文字は「*」および「|」のみです。

たとえば、以下ようになります。

```
QM1@hostname.queue.filter.includeonly.regex=TEST*|ABC*|WILY*
```

解決方法:

この問題に回避策はありません。

WebSphere Application Server 7 上のセグメント化エラー - 84988

症状:

APM エージェントを WAS 7.0 Fix Pack 21 Java 6 SR9 (WAS 7.0.0.21) にインストールすると、アプリケーションのクラッシュが発生することがあります。クラス検証の完了後、その後のインストールされたエージェントによる同じクラスのホットコード置換までの間に特定の競合状態が発生します。IBM は、この問題について APAR IV07414 を作成しています。

解決方法:

WAS 7.0 Fix Pack 21 に対して Java 6 SR9 から Java 6 SR11 以降にアップグレードします。

64ビット Linux EM システムのクロック時刻を遅らせた場合に警告が表示されないか、またはシャットダウンされない - 83106

症状:

64ビット Linux Enterprise Manager で、システムクロックの時刻を遅らせた場合に、Enterprise Manager で警告が表示されないか、またはシャットダウンされません。これは Java JVM のバグが原因で発生します。
http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6900441 を参照してください。この問題は 32 ビットまたは Linux 以外のオペレーティングシステムには該当しません。

解決方法:

Enterprise Manager の開始後はシステム時刻を変更しないでください。システム時刻をリセットする前に、Enterprise Manager を停止してください。

Postgres SQL のインストール時のエラー - 82840

症状:

APM データベースとして PostgreSQL DB をインストールする場合、管理者に以下のメッセージのようなエラーが表示される場合があります。

Execute ANT Script: Status: ERROR

Additional Notes: ERROR - C:¥Program Files¥CA

APM¥Introscope<Version_Number>¥install¥db.installer.exec.xml:22: Timeout: killed the sub-process

解決方法:

このメッセージを無視しても機能上の影響はありません。

WebSphere Application Server 7 のアップグレード後に Introscope カスタム サービスの開始に失敗する - 82689

症状:

WebSphere Application Server 7 をアップグレードした後に、Introscope カスタム サービスを開始すると、`java.security.AccessControlException` がスローされることがあります。

解決方法:

以下のタスクのいずれかを実行します。

- `<WAS_Home>/properties/server.policy` を変更して Java セキュリティ権限を許可します。
- WebSphere 管理コンソールで `[Use Java 2 security to restrict application access to local resources]` オプションをクリアします。

MQ Monitor/WebSphere MQ エージェントがデフォルトでキュー マネージャを監視しない - 78313

症状:

WebSphere MQ エージェントは、デフォルトでは WMQ 7.1 上のキュー マネージャを監視しません。これはクライアント チャンネル認証が有効であるためです。

解決方法:

キュー マネージャの監視を有効にするには、本文書の執筆時点で以下のサイトに存在する、IBM technote 1577137 「IBM WMQ 7.1 / 7.5 queue manager - RC 2035 MQRC_NOT_AUTHORIZED when using client connection as an MQ Administrator」の設定手順に従ってください。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21577137>

注: 以下のコマンドを使用してクライアント チャンネル認証を無効にすることができます。

```
ALTER QMGR CHLAUTH(DISABLED)
```

CTG のチャンネル追跡で SYSVIEW R13.5 に APAR R044532 が必要 - 76104

症状:

SYSVIEW R13.5 で動作時には、CA APM for IBM CICS Transaction Gateway (CTG) のチャンネル追跡は、Workstation 内の追跡を生成も収集もしません。

解決方法:

CTG のチャンネル追跡を適切に表示するために SYSVIEW R13.5 上に APAR R044532 を適用します。

CA APM データベース関連のログにジャンク文字が含まれている - 73579

症状:

Install Anywhere 2009 の制限により、インストール中に作成される CA APM データベース ログ (英語以外のロケール) に、ジャンク文字が含まれている場合があります。

解決方法:

この問題に回避策はありません。この問題のチケットは Install Anywhere と共に提出されており、修正プログラムは将来のリリースで利用可能になります。

Tomcat 6.x 上にスレッド プール メトリックが見つからない - 72879

症状:

サードパーティの問題のため、Windows (32 または 64 ビット) の Tomcat アプリケーション サーバ バージョン 6.0.24 以降では、いくつかのスレッド プール メトリックのデータ、および TomcatMonitoring.jar、GCMonitor.jar、および PlatformMonitor.dll 拡張のいくつかのリソース メトリックのデータが欠落している場合があります。

解決方法:

Tomcat インストールから、tcnative-1.dll ファイルに含まれる Tomcat ネイティブ ライブラリを削除します。

WebSphere 7 上の値が負の PMI メトリック - 72467

症状:

IBM WebSphere 7 を実行すると、値が負の PMI メトリックが表示される場合があります。

解決方法:

IBM のバグ ページ

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg1PM18755> を参照して、IBM WebSphere Application Server 7.0.0.15、または Fix Pack 15 へアップグレードします。

OOM エラーのため、IBM JDK SR10 への更新が必要 - 71618

症状:

サードパーティの問題のため、IBM Java 1.6 を実行するアプリケーションを監視するために CA APM エージェントを使用し、かつ推奨スイッチ `-javaagent` を使用している場合、重大なメモリ オーバーヘッドが発生する場合があります。これは JDK のネイティブのメモリ リークに起因します。アプリケーションは結果的にメモリを使い果たします。メモリ リークは、最大ヒープ サイズ (`-Xmx`) の設定にかかわらず発生します。Autoprobe インストールメンテーションが、依然として `-javaagent` を使用している間に無効にされると (`introscope.autoprobe.enable=false`)、この問題も発生します。

この問題は、IBM JVM でのオブジェクトのファイナライズに特有です。この問題の詳細については、IBM Web サイト

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg1I299243> で入手できます。

解決方法:

IBM 用の AutoProbe コネクタを使用し、`-Xbootclasspath` スイッチを用いてブートストラップクラスパスでデプロイします。ただし、これは一時的な回避策でしかなく、IBM の公式パッチを取得して問題を解決することをお勧めします。

z/OS 環境での誤ったメッセージブローカステータス - 70242

症状:

サードパーティの問題により、z/OS 環境でブローカが停止した後でも、メッセージブローカプロパティが「実行中」ステータスを返します。

解決方法:

CA Technologies はサードパーティと共同して問題の解決に当たっています。

Vista 以降の OS 上での Introscope Workstation の起動での問題 - 66629

症状:

Windows Vista 以降のリリースで Microsoft によって実装された変更により、ユーザ ID が Administrators グループに属していても、Program Files フォルダにインストールされている Introscope Workstation を起動できません。

解決方法:

次の手順に従ってください:

1. Workstation.exe を右クリックします。
2. [管理者として実行] を選択します。

Administrators グループに属していない場合は、Workstation を Program Files フォルダ以外にインストールする必要があります。

日本語版 HP-UX システムでのエクスポート済みトランザクションの再インポートに関するエラー - 65101

症状:

LANG=ja_JP.SJIS および JRE 1.6 が使用されている HP-UX 11i 日本語版プラットフォーム上で CA APM を使用している場合、エクスポートされたビジネス トランザクションを再インポートしようとする、サードパーティの問題が原因でエラーが発生します。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

CEM UI のページを初めて表示したときにクラッシュが発生する場合があります - 63644

症状:

CEM ユーザ インターフェースを起動し、初めて CEM UI ページを表示しようとする、問題が発生することがあります。サードパーティのバグのため、特定の状況下では JVM が <EM_Home> にエラー ログ ファイルを生成し、Enterprise Manager がクラッシュします。

解決方法:

この問題に回避策はありません。詳細については、http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6508889 で Sun の問題を参照してください。Sun がこの問題に対する修正を作成したら、修正を含む Java のバージョンにアップグレードしてください。

OOM エラーのため、JVM 1.6u25 への更新が必要 - 63210

症状:

サードパーティの問題により、以下のようなエラーが発生することがあります。

```
java.lang.OutOfMemoryError: unable to create new native thread
```

解決方法:

JVM を 1.6u25 以降に更新します。詳細については、http://bugs.sun.com/view_bug.do?bug_id=6478317 を参照してください。

JVM のアップグレードが必要となる Sun JVM 1.6.0_16 のメモリ不足エラー - 62360

症状:

サードパーティのバグのため、Sun JVM 1.6.0_16 以下で CA APM を実行している場合、OOM エラーが発生することがあります。

解決方法:

修正 (Sun のバグ

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6423256 を参照) を含む Sun JVM にアップグレードします。以下のいずれかにアップグレードすることも考慮してください。

- 1.3GB より大きいヒープ サイズをサポートする Linux JVM
- 32 ビット JVM にすでに制限が発生している場合、64 ビット JVM

特定の JVM プラットフォームの組み合わせで起動時に問題が発生する場合があります - 61585

症状:

AIX プラットフォーム上の IBM J9 バージョンで、Enterprise Manager を使用している場合、起動時に問題が発生することがあります。

以下のエラーが表示されます。

```
com.ibm.xtq.xslt.jaxp.HandledRuntimeException: [ERR 0614]
```

解決方法:

Enterprise Manager を再起動します。

Linux プラットフォームの WebSphere でエージェントの起動時に発生する問題 - 59363

症状:

サードパーティの問題のため、32 ビットまたは 64 ビット Red Hat Linux 上で IBM WebSphere Application Server 6.1 を実行していると、アプリケーションサーバ上で Introscope エージェントを起動するときに問題が発生する場合があります。

解決方法:

使用可能な場合は、WebSphere Application Server Java SDK 1.5 SR12 を適用します。まだ使用可能でない場合は、WSAS APAR PM05658 を適用します。SR12 および WSAS APAR PM05658 は、どちらも IBM Fix Central Web サイトからダウンロードできます。SR10 はその他のすべてのプラットフォームに有効です。

サポートされていない Java 5 を使用する JBoss または Tomcat のアプリケーションサーバでの動的インスツルメンテーション - 58986

症状:

CA APM は、Java 5 (1.5.x) を使用する JBoss または Tomcat のアプリケーションサーバでの動的インスツルメンテーションをサポートしません。

起動クラス (WebAppSupport.jar) が設定された場合、*introscope.agent.remoteagentdynamicinstrumentation.enabled* プロパティが true に設定されても、動的インスツルメンテーションは自動的にこれらのアプリケーションサーバ上で無効になります。

動的インスツルメンテーションが無効ではなく、WebAppSupport.jar が設定されていない場合、Java 5 を用いた Tomcat または Jboss を使用している間に不安定な動作が生じる場合があります。

解決方法:

動的インスツルメンテーションは、Java 6 を用いた JBoss または Tomcat で有効です。

IBM JDK 1.6 で Java Agent を使用するには JDK のアップグレードが必要 - 53425

サードパーティのバグのため、IBM JDK 1.6 で Introscope Java エージェントを使用するユーザは、SR6 以降のアップデートをインストールする必要があります。WebSphere Application Server 7.0 で Introscope Java Agent を使用するユーザは、WebSphere 7.0 fixpack 7 および (SR6 が含まれる) WebSphere SDK fixpack 7 をインストールする必要があります。

Classic JVM の OS/400 (IBMi) のエージェントでのサポート終了 - 52642、58070

OS/400 (IBMi) での Classic JVM 1.5 および 1.6 に関するサードパーティの問題のため、CA APM は OS/400 の Introscope エージェントでの Classic JVM のサポートを終了しました。WebSphere Application Server 6.1 および 7.0 用の 64 ビット JVM を引き続き使用するには、J9 64 ビット JVM の使用に切り替えます。

WebLogic Server および JRockit での Introscope の実行 - 52469

JRockit 環境の WebLogic Server 9.0 で Introscope を実行している場合、JRockit を 1.5.0-03 から 1.5.0-04 (以降) にアップグレードするか、または JRockit 1.5.0-03 から Sun 1.5.0-03 に切り替える必要があります。

IBM JDK 1.5 でエージェントを使用するに JDK のアップグレードが必要 - 47067、47451、55622

サードパーティのバグのため、IBM JDK 1.5 で Introscope Java Agent を使用するユーザは、SR10 以降のアップデートをインストールする必要があります。WebSphere Application Server 6.1 で Introscope Java Agent を使用するユーザは、WebSphere 6.1 fixpack 27 および (SR10 が含まれる) WebSphere SDK fixpack 27 をインストールする必要があります。

WebSphere MQ での動的インスツルメンテーション中の Java 例外 - 45915

症状:

IBM WebSphere MQ の問題により、Introscope が動的インスツルメンテーションの処理中に特定の Java クラスを再定義すると、Java 例外が生成されます。これまでに、この動作が発生するのは IBM WebSphere MQ のみです。

解決方法:

問題のあるクラスの再定義を回避します。問題のあるクラスは、Java スタックトレースで特定できます。CA Technologies はこの問題について IBM に報告済みであり、この問題を引き続き監視します。

64 ビット SuSe 9 システムでの JBoss の問題 - 45889

症状:

JBoss のバグのため、64 ビット版 SuSe 9 環境で JBoss 4.0.5 を実行している場合に、実行時に j2E.pbd ファイルを変更すると、JBoss サーバのログまたは Introscope エージェントのログにヌルポインタ例外が記録されます。

解決方法:

変更した後に JBoss サーバを再起動します。

ストールしたステートレスプラグインが正しく終了しない場合がある - 27489、27492

症状:

JRE の問題のため、一部のプラットフォームでは、ストールしたステートレスなプラグインが正しく終了せず、EPAgent が停止した後もリソースを消費し続けます。

解決方法:

このような孤立プロセスは、手動で停止させる必要があります。

ローカライゼーションの既知の問題

CEM コンソール内のグラフに文字化けした文字が表示される - 82709

症状:

Workstation を実行する Linux システムでは、一部の表示で文字が判読不明となったり文字化けすることがあります。

解決方法:

ロケールのフォントをコンピュータにインストールします。

Cloud Monitor および LISA のダッシュボードが部分的にローカライズされている - 76051

症状:

CA APM Cloud Monitor および CA LISA のダッシュボードが部分的にローカライズされています。

解決方法:

CA Technologies では現在この問題に対応中であり、利用可能になった時点で完全な翻訳を提供する予定です。

CA APM 9.1.1 の機能、拡張機能、およびバグ修正がローカライズされていない - 75810

症状:

WebView の SAP バージョン内の一部のメニュー項目で、英語以外のロケールでローカライズされたテキスト ラベルが表示されません。この問題は、WebView で新しいトランザクション追跡を開始するときに使用するドロップダウンメニュー オプションでのみ発生します。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

凡例文字列が APM レポートでローカライズされない - 75638

症状:

CA APM と Infrastructure Management を統合していて、CA APM レポートが NetQoS Performance Center 上に表示される場合、ステータス バーの凡例はローカル言語に翻訳されません。この情報は英語のままです。

解決方法:

この問題に回避策はありません。

日本語版または中国語(簡体字)版の Enterprise Manager で生成された CSV に文字化けしたテキストが含まれる - 72920

症状:

日本語版または中国語(簡体字)版の Enterprise Manager システムで生成された CSV ファイルをエクスポートすると、それらの CSV ファイルに文字化けしたテキストが含まれています。

解決方法:

この問題に回避策はありません。CA Technologies では、この問題の修正方法について現在調査中です。

日本語版または中国語(簡体字)版の PDF に文字化けしたテキストが含まれる場合がある - 72360

症状:

日本語版または中国語(簡体字)版の PDF のテキストが文字化けすることがあります。たとえば、Internet Explorer で CEM を使用しており、PDF リンクを右クリックし、[新しいウィンドウで開く] を選択すると、PDF に文字化けしたテキストが表示されます。

解決方法:

Mozilla Firefox を使用します。

ドキュメントの既知の問題

ドキュメントが誤って z/OS または OS/400 をサポートする Enterprise Manager を参照する - 84667

症状:

CA APM 9.5 ドキュメントが、z/OS および OS/400 用の Enterprise Manager を参照することがあります。

解決方法:

Enterprise Manager は z/OS および OS/400 プラットフォームをサポートしなくなりました。そのようなドキュメント参照は無視してください。

付録 A: 使用条件

CA APM で使用するサードパーティユーティリティおよびソフトウェアのライセンス情報については、こちらの **¥Bookshelf Files¥TPSA** フォルダ内の CA マニュアル選択メニューを参照してください。